

## 多湿転換畑におけるグラス型飼料作物の多収栽培技術(1)

誌名	香川県畜産試験場研究報告
ISSN	03893553
巻/号	24
掲載ページ	p. 40-53
発行年月	1987年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター  
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council  
Secretariat



## 多湿転換畑におけるグラス型飼料作物の多収栽培技術

### 1. 多湿条件を中心とする安定多収栽培

今田昭平・横山二郎・筒井孝治

乾田および湿田の各条件でのグラス型各草種の収量は、スーダングラスの137.0～161.4 kg/aにはおよばなかったが、栽培ヒエ、カラードギニア、オオクサキビ、ローズグラスなどは多湿条件での減収割合が少なく耐湿性に優れた。小型機での刈取作業は草丈により多少の難易はあったが、機械刈りに支障はなかった。

耕起散播、代掻直播、育苗移植、苗播移植の4方式では、耕起散播が他の栽培方式より多収し、草種別ではシコクビエの移植栽培が極低収のほかは、耐湿性の各草種とも移植栽培は安定多収であった。

作期について、播種を5月1日から20日間隔で7月20日までしたところ、乾物収量が最も多収な播種期は、栽培ヒエが5月1日～20日、オオクサキビ、カラードギニア、ローズグラスでは5月20日～6月10日であった。

生育初期の雑草防除には、移植栽培における水田除草剤の除草効果はいずれも高く、ロンスター乳剤は栽培ヒエに対して薬害が認められた。乾田除草剤では、グラメックス、ロックス、ゲザプリム、アクチノールなどは薬害が少なく、除草効果も比較的高かった。

西南団地における転換畑での粗飼料生産には、すでに定着しているイタリアンライグラスの生産技術に相当する、夏期牧草型草種の省力高位安定生産技術の確立が強く望まれている。しかし、集団転作の困難な多湿条件下では、暖地型

牧草の導入には多くの問題点がある。そこで、グラス型飼料作物の耐湿性と機械適性、栽培方式、作期、および雑草防除などについて検討した。

### 材料及び方法

#### 1. 試験地及び試験期間

木田郡三木町下高岡（香川県畜産試験場内）で昭和57年～60年までの4ケ年間実施した。

#### 2. 試験方法の概要

##### 1) 耐湿性草種の選定と機械適性

供試草種：シコクビエ、グリーンパニック、栽培ヒエ、カラードギニアグラス、オオクサキビ、ローズグラス、ハトムギ、スーダングラス（対照）

試験区分：A区湿潤田，B区乾田，1区20m<sup>2</sup>，3反復

多湿転換畑におけるグラス型飼料作物の多収栽培技術

播種期及び播種法 : 57年5月31日,  
58年6月8日, 59年6月12日, 平畦  
散播

播種量 : シコクビエ, グリンパニック,  
栽培ヒエ 0.3 kg/a, カラードギニア, オ  
オクサキビ, ローズグラス 0.2 kg/a, ハ  
トムギ, スーダングラス 0.5 kg/a

施肥料 (kg/a) : 基肥は厩肥300, 苦  
土石灰10, N1.0, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 2.0, K<sub>2</sub>O 1.0  
追肥は刈取毎N, K<sub>2</sub>O各0.64

収 穫 : 刈取機はテラフロントモアー,  
刈取期はつぎのとおり

年 次	1 番刈	2 番刈	3 番刈		
57年	7月9日	グリンパニック } カラードギニア } オオクサキビ } ローズグラス }	8月18日	グリンパニック } カラードギニア } オオクサキビ } ローズグラス }	10月13日
		シコクビエ } 栽培ヒエ } ハトムギ } スーダングラス }	9月2日	-	
58年	7月27日	9月12日		-	
59年	8月10日	9月20日		-	

2) 栽培方式と収量の関係

供試草種 : 栽培ヒエ (57~59),  
オオクサキビ (57~59), シコクビエ  
(57), カラードギニアグラス (58~  
59)

耕種様式 : 耕起散播, 代播直播, 育苗  
移植, 苗播移植

栽培概要 : 育苗方法は, 水稻の育苗箱

を使用し, 苗播方式にはペーパーポット (R-5) に播種した。オオクサキビはビニールハウス内 (夜間15℃, 昼間35℃) で37~43日間育苗, 栽培ヒエ, シコクビエ, カラードギニアなどは露地で28日間育苗した。

播種期 : 移植期及び収穫期は次のとおり,

多湿転換畑におけるグラス型飼料作物の多収栽培技術

年次	播種及び移植期			収穫期		
	育苗	直播	移植	1 番刈	2 番刈	3 番刈
57年	4月26日	5月31日	6月8日	栽培ヒエ	オオクサキビ } 9月2日	-
				オオクサキビ } 8月6日	シコクビエ } 9月2日	
				シコクビエ	栽培ヒエ	9月13日
58年 (5月17日)	4月28日	6月15日	6月15日	栽培ヒエ	7月28日	オオクサキビ } 10月25日
				オオクサキビ	8月10日	カラードギニア } 9月9日
				カラードギニア	8月2日	
59年 (5月28日)	5月18日	6月25日	6月25日	栽培ヒエ	8月7日	オオクサキビ } 11月8日
				オオクサキビ	8月7日	カラードギニア } 9月27日
				カラードギニア		

施肥量kg/a : 基肥, 厩肥 300, 苦土石灰 10 標肥区 N1.0, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 2.0, K<sub>2</sub>O 1.0  
 多肥区 N1.5, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 2.0, K<sub>2</sub>O 1.5  
 追肥, 標肥区 N1.2 - K<sub>2</sub>O 1.2 多肥区 N1.8 - K<sub>2</sub>O 1.8  
 2回に分施

多湿転換畑におけるグラス型飼料作物の多収栽培技術

3) 作期と収量の関係

供試草種 : シコクビエ, オオクサキビ,  
ローズグラス, 栽培ヒエ(早), 栽培ヒエ(中)

播種期 : 5月1日, 5月20日, 7月1日, 7月20日

栽培概要 : 播種量150g/a. 条播, 条間50cm

施肥量 (kg/a)

基肥, 厩肥300, 苦土石灰10  
N1.2, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 2.0, K<sub>2</sub>O  
1.0

追肥, 刈取毎N, K<sub>2</sub>O各0.4  
刈取期は次のとおり。

区 分	刈取回次	57年	58年	59年
5月1日 播	1	7月1日	7月6日	6月30日
	2	7・29	8・5	8・4
	3	8・30	9・29	10・4
	4	10・12	—	—
5月20日播	1	7月21日	7月20日	7月16日
	2	8・30	8・18	9・5
	3	10・21	9・29	10・24
6月10日播	1	7月29日	8月5日	7月27日
	2	8・30	9・13	9・5
	3	10・21	10・18	10・26
7月1日 播	1	8月30日	8月16日	9月20日
	2	10・21	9・29	10・26
	3	—	—	—
7月20日播	1	9月13日	—	9月20日
	2	10・12	—	10・26
	3	—	—	—

4) 生育初期の雑草防除

とおり。

除草剤の種類及び10a当り使用は次の

水田除草剤

① オキサシアゾン乳剤(ロンスター乳剤)	500CC
② クロメトキシニル粒剤(エックスゴーニ粒剤)	3kg
③ ピニゾレート、ブタクロール25(クサカリン粒剤25)	3kg
④ ジメタメトリン、ピペロホス粒剤(アビロサン粒剤)	3kg

乾田除草剤

① アイオキシニル乳剤(アクチノール乳剤)	200CC
② シアナジン水和剤(グラメックス水和剤)	200CC
③ アトラジン水和剤(ゲザプリム50)	200CC
④ ベンチオカーブ、プロメトリン剤(サターンバアロ乳剤)	700CC
⑤ CAT水和剤(シマジン)	100g
⑥ MCC水和剤(スエップ水和剤)	100g
⑦ アラクロール乳剤(ラッソー乳剤)	250CC
⑧ リニユロン水和剤(ロロックス)	150g

使用時期は、水田用では、①代かき直後、  
②移植後4日目、③移植後6日目、④移植  
後8日目。乾田用では、播種後土壌処理。

供試草種：栽培ヒエ、オオクサキビ、  
カラードギニアグラス

栽培概要：播種期及び播種方法は、水

田用除草剤区では、代かき7月1日、移植  
7月4日(条間30cm、株間15cm、田植  
機使用)、乾田用除草剤区では、播種7月  
9日、播種量は栽培ヒエ200g/a、オ  
オクサキビ、カラードギニア150g/a、  
条播、条間30cm

結果及び考察

1) 耐湿性草種の選定と機械適性

湿潤田、乾田における生育、収量は表1  
に示した。

57年はカラ梅雨現象と隣接ほ場が畑地  
化したため、地下水の横浸透がなく、多湿

による生育障害はみられず、乾田区と同等  
もしくは多収であった。58年は早ばつの  
影響をうけ、各草種とも生育が悪く、59  
年は播種期がおくれたため、1番草の刈取  
が8月10日とおそく、各草種とも2回刈

## 多湿転換畑におけるグラス型飼料作物の多収栽培技術

にとどまり、57年に比べて58年、59年はかなり減収であった。

3ヶ年平均乾物収量は、グラス型の各草種はスーダングラスの湿潤田区137.0 kg/a、乾田区161.4 kg/aにはおよばなかったが、湿潤田区ではカラードギニア136.9 kg/a、ローズグラス135.9 kg/a、グリーンパニック131.6 kg/a、オオクサキビ125.9 kg/a、乾田区ではグリーンパニック136.3 kg/a、カラードギニア135.9 kg/a、ローズグラス128.9

kg/a、オオクサキビ127.9 kg/aなどの順に多収であった。全般に乾田に比べ湿潤田が低収であったが、ローズグラス、栽培ヒエ、カラードギニア、オオクサキビなどは減収割合が少なく耐湿性に優れた草種と考えられた。また、小型刈取機のテラフロントモア-で刈取ったが、草丈や倒伏程度により多少の難易はあったが、各草種とも刈取作業に支障はなかった。

多湿転換畑におけるグラス型飼料作物の多収栽培技術

表1. 湿潤田, 乾田における生育, 収量

草種	年度	刈取時草丈(cm)		生草収量(kg/a)		乾物収量(kg/a)		乾物収量の A/B×100
		A	B	A	B	A	B	
シコクビエ	57	89	97	925	1,061	141.6	150.7	94
	58	102	93	754	698	116.8	118.1	99
	59	86	108	706	774	101.5	104.6	97
	平均	92	99	795	844	120.0	124.5	96
グリーンパニック	57	116	110	988	795	179.8	144.2	125
	58	116	126	549	637	105.7	133.0	80
	59	108	129	667	700	109.4	131.7	83
	平均	113	122	735	711	131.6	136.3	97
栽培ヒエ	57	118	125	799	664	107.1	100.0	107
	58	144	144	728	772	132.8	129.7	102
	59	212	170	650	720	115.0	120.9	95
	平均	158	146	726	719	118.3	116.9	101
カラードギニア グ ラ ス	57	110	112	1,016	774	179.7	132.6	135
	58	112	104	622	645	119.1	138.8	86
	59	127	125	661	672	120.0	136.2	88
	平均	116	114	766	697	139.6	135.9	101
オオクサキビ	57	103	100	1,008	988	159.1	158.2	101
	58	119	125	775	740	112.1	120.9	93
	59	106	117	637	643	104.1	110.1	95
	平均	109	114	807	790	125.1	127.9	98
ローズグラス	57	117	109	951	893	163.8	158.7	103
	58	128	128	556	507	116.8	95.1	122
	59	113	127	722	801	127.0	133.0	95
	平均	119	121	743	734	135.9	128.9	105
ハトムギ	57	123	133	587	635	69.8	79.4	88
	58	139	126	406	366	49.0	45.9	107
	59	—	—	—	—	—	—	—
	平均	131	130	497	501	59.4	62.7	95
スーダングラス	57	226	174	1,023	968	181.6	169.5	107
	58	201	208	627	768	124.4	166.6	75
	59	152	183	763	910	104.9	148.0	71
	平均	206	188	804	882	137.0	161.4	85

注：Aは湿潤田, Bは乾田



2) 栽培方式と収量の関係

栽培方式及び施肥量別生草、乾物収量は表 2.3 に示した。

水稻の育苗箱を用い、オオクサキビはビニールハウス内、他の草種は露地で育苗したが、苗の生育は栽培ヒエが最もよく、シコクビエが劣った。本田への移植は、代かき後、稲の田植機での機械移植、ペーパーポットでの苗播移植は手播を行なった。両方式とも活着はよく、各草種の初期生育に大差はみられなかったが、その後、移植栽培のシコクビエは、他草種に比べて生育が劣り、雑草が多く発生した。また、栽培ヒエは各栽培方式とも 1 番刈後の再生が悪かった。

58年、59年は施肥量について、標肥区の 1.5 倍を多肥区として、本田への移植と播種を同時期に行なった。全般に収量は多肥区が多収であったが、オオクサキビの耕起散播、育苗移植、苗播移植、および栽培ヒエ、カラードギニアの苗播移植では、標肥区に比べて多肥区が低収であった。それは多肥のため倒伏の影響により減収したものと考えられた。

栽培方式別の平均生草収量（標肥区）は、栽培ヒエ、オオクサキビ、カラードギニアの苗播移植、およびシコクビエの耕起散播が多収であったが、平均乾物収量（標肥区）では、栽培ヒエ、オオクサキビは耕起散播、苗播移植、カラードギニア、シコクビエは耕起散播、代播直播などが多収であった。

全般に耕起散播が各草種とも多収であった。

耐湿性の栽培ヒエ、オオクサキビなどの移植栽培は安定多収であったが、シコクビエの移植栽培は極低収であった。

3) 作期と収量の関係

主な草種の播種期別生草、乾物収量は表 4、播種期別日当り乾物生産量は表 5 に示した。各草種の乾物収量の多収な播種期は、57年はローズグラス、栽培ヒエが 5 月 1 日、シコクビエ、オオクサキビが 5 月 20 日、58年は栽培ヒエ（中生種）5 月 1 日、栽培ヒエ（早生種）5 月 20 日、シコクビエ、オオクサキビ 6 月 10 日、59年は各草種とも 5 月 20 日であった。また、3 年平均乾物収量では、栽培ヒエ（中）5 月 1 日、オオクサキビ、ローズグラス、栽培ヒエ（早）、カラードギニアなどは 5 月 20 日、シコクビエは 6 月 10 日が最も多収であった。

各草種の日当り乾物生産量については、オオクサキビ、ローズグラスが 5 月 20 日播種、シコクビエ、栽培ヒエ（早）（中）カラードギニアなどは 6 月 10 日播種が最も高かった。

多湿転換畑におけるグラス型飼料作物の多収栽培技術

表2. 栽培方式及び施肥量別生草収量

(kg/a)

処理区分	年度	栽培ヒエ		オオクサキビ		カラードギニアグラス		シコクビエ	
		標肥	多肥	標肥	多肥	標肥	多肥	標肥	多肥
耕起散播	57	708	—	1,079	—	—	—	1,023	—
	58	687	751	920	901	845	926	—	—
	59	701	—	571	—	744	—	—	—
	平均	699	751	857	901	795	926	1,023	—
代播直播	57	505	—	881	—	—	—	787	—
	58	660	741	901	917	781	817	—	—
	59	739	816	822	1,059	798	870	—	—
	平均	635	778	868	988	790	884	787	—
育苗移植	57	588	—	878	—	—	—	473	—
	58	723	771	758	836	744	867	—	—
	59	753	728	1,136	985	616	746	—	—
	平均	688	750	924	911	680	807	473	—
苗播移植	57	605	—	873	—	—	—	528	—
	58	705	760	911	969	846	1,006	—	—
	59	827	793	1,073	956	807	746	—	—
	平均	712	777	952	963	827	876	528	—

表3. 栽培方式及び施肥量別乾物収量

(kg/a)

処理区分	年度	栽培ヒエ		オオクサキビ		カラードギニアグラス		シコクビエ	
		標肥	多肥	標肥	多肥	標肥	多肥	標肥	多肥
耕起散播	57	107.1	—	159.1	—	—	—	141.6	—
	58	142.1	145.2	169.8	164.7	168.9	177.9	—	—
	59	119.7	—	104.1	—	131.1	—	—	—
	平均	123.0	145.2	144.3	164.7	150.0	177.9	141.6	—
代播直播	57	81.3	—	120.9	—	—	—	102.9	—
	58	135.2	143.1	174.7	163.5	163.2	172.2	—	—
	59	119.2	128.7	123.2	147.3	143.5	144.2	—	—
	平均	111.9	135.9	139.6	155.4	153.4	158.2	102.9	—
育苗移植	57	99.0	—	132.3	—	—	—	63.7	—
	58	125.4	134.9	141.4	146.0	148.2	151.9	—	—
	59	126.4	126.1	155.7	126.3	96.1	109.7	—	—
	平均	116.9	130.5	143.1	136.2	122.2	130.8	63.7	—
苗播移植	57	101.3	—	130.2	—	—	—	74.8	—
	58	113.5	135.4	177.4	180.7	155.8	173.7	—	—
	59	142.0	132.5	153.6	140.6	141.0	130.3	—	—
	平均	118.9	134.0	153.7	160.7	148.4	152.0	74.8	—

多湿転換畑におけるグラス型飼料作物の多収栽培技術

表4. 主要草種の播種期別収量

播種期 月 日	年 度	シコクビエ		オオクサキビ		ローズグラス		栽培ヒエ(早)		栽培ヒエ(中)		カラードギニア	
		生草	乾物	生草	乾物	生草	乾物	生草	乾物	生草	乾物	生草	乾物
5月1日	57	702	114.3	774	130.0	904	182.0	—	—	613	104.8	—	—
	58	645	112.8	733	112.3	—	—	652	109.9	691	129.2	—	—
	59	—	—	1,042	155.2	868	161.6	430	73.5	461	74.5	855	148.6
	平均	674	113.6	850	132.5	886	171.8	541	91.7	588	102.8	855	148.6
5月20日	57	802	121.8	1,048	161.8	768	158.4	—	—	504	79.4	—	—
	58	529	81.2	718	104.4	—	—	648	112.5	696	111.3	—	—
	59	—	—	1,176	188.4	1,077	202.2	544	99.0	550	104.9	931	182.6
	平均	666	101.5	981	151.5	923	180.3	596	105.8	583	98.5	931	182.6
6月10日	57	972	140.6	656	108.6	696	135.0	—	—	535	78.2	—	—
	58	703	120.8	869	158.4	—	—	512	79.5	607	120.6	—	—
	59	—	—	782	127.3	808	149.9	401	77.7	502	86.0	869	163.6
	平均	838	130.7	769	131.4	752	142.5	457	78.6	548	94.9	869	163.6
7月1日	57	480	82.9	413	69.7	428	87.2	—	—	190	42.4	—	—
	58	398	64.4	483	72.2	—	—	221	39.0	224	45.0	—	—
	59	—	—	852	73.6	447	75.7	53	19.5	165	43.7	409	66.0
	平均	439	73.7	583	71.8	438	81.5	137	29.3	193	43.7	409	66.0
7月20日	57	339	54.1	259	43.0	264	54.5	—	—	135	29.7	—	—
	58	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	59	—	—	498	64.2	272	47.6	152	37.9	216	61.3	443	87.1
	平均	339	54.1	379	53.6	268	51.1	152	37.9	198	45.5	443	87.1

多湿転換畑におけるグラス型飼料作物の多収栽培技術

表 5. 主要草種の播種期別日当り乾物生産量

播種期	年度	シコクビエ	オオクサキビ	ローズグラス	栽培ヒエ(早)	栽培ヒエ(中)	カラードギニア
5月1日	57	0.697	0.793	1.110	—	0.866	—
	58	0.748	0.749	—	1.145	0.861	—
	59	—	0.995	1.032	0.774	0.784	0.953
	平均	0.723	0.846	1.071	0.960	0.837	0.953
5月20日	57	0.840	1.116	1.092	—	0.778	—
	58	0.625	0.803	—	1.250	0.856	—
	59	—	1.200	1.288	0.917	0.971	1.163
	平均	0.733	1.040	1.190	1.084	0.868	1.163
6月10日	57	1.134	0.876	1.089	—	0.965	—
	58	0.929	1.218	—	1.420	1.269	—
	59	—	0.922	1.086	0.948	1.049	1.188
	平均	1.032	1.005	1.088	1.184	1.094	1.188
7月1日	57	0.805	0.677	0.849	—	0.707	—
	58	0.716	0.802	—	0.848	0.500	—
	59	—	0.629	0.647	0.241	0.540	0.564
	平均	0.761	0.703	0.748	0.545	0.582	0.564
7月20日	57	0.625	0.518	0.657	—	0.540	—
	58	—	—	—	—	—	—
	59	—	0.655	0.486	0.611	0.989	0.889
	平均	0.625	0.587	0.572	0.611	0.765	0.889

4) 生育初期の雑草防除

水田，乾田における除草剤別牧草および雑草量は表 6.7 に示した。

水田については，ロンスターは栽培ヒエに薬害が発生したが，オオクサキビ，カラードギニアには薬害は認められなかった。

X-52，クサカリン，アピロサンなどは，各草種ともほとんど薬害はなく，雑草は発生しなかった。

また，無処理区においてもオオクサキビ，栽培ヒエなどは雑草量がきわめて少なかったのは，移植後の生育が旺盛で雑草の生育が抑圧されたものと考えられた。

乾田については，全般にカラードギニアは薬害が多く，オオクサキビは薬害が少い

傾向であった。3草種平均乾物重の無処理区対比では，ラッソー区が最も低く，ついでシマジン区，サターンバアロ区，スエップ区などの順で薬害が大きいのと考えられた。また，3草種の平均雑草率は無処理区に比べてラッソー区以外の除草剤区はいずれも低く，とくにグラメックス，ロロックス，ゲザプリム，アクチノールなどの順に除草効果の高いことが証明された。

表 6. 水田における除草剤別牧草および雑草重

(kg/a)

薬 剤 名	栽 培 ヒ エ			オオクサキビ			カラードギニア			3 草種平均	
	生草	乾物	雑草	生草	乾物	雑草	生草	乾物	雑草	乾物重 対比%	雑草率%
ロ ン ス タ ー	344	82.1	0	360	61.9	0	445	128.4	0	83.9	0
X - 5 2	495	111.6	0	475	75.5	0	383	109.1	0	91.3	0
ク サ カ リ ン	503	119.1	0	521	82.7	0	378	92.8	0	90.8	0
ア ピ ロ サ ン	563	132.1	0	494	85.7	0	380	94.0	0	96.1	0
無 処 理	532	125.2	1.5	553	92.6	0.2	423	106.8	5.2	100	2.1

註：雑草は乾物重

多湿転換畑におけるグラス型飼料作物の多収栽培技術

表7. 乾田における除草剤別牧草および雑草重

(kg/a)

薬剂名	栽培ヒエ			オオクサキビ			カラードギニア			3草種平均	
	生草	乾物	雑草	生草	乾物	雑草	生草	乾物	雑草	乾物重 対比%	雑草率%
アクチノール	261	69.4	0	262	57.1	11.0	89	27.0	27.5	167	20.0
グラメックス	379	92.3	0	152	32.1	0	52	15.6	13.7	150	9.0
ゲザプリム	246	63.0	2.8	254	55.6	0	60	17.7	32.0	163	18.8
サターンバアロ	164	43.2	21.4	108	26.1	6.9	60	17.6	20.9	94	36.2
シマジン	278	61.0	12.6	120	21.6	11.7	0	0	12.7	89	30.9
ステップ	177	49.8	2.1	277	46.7	0.8	1	0.2	41.7	105	31.6
ラッソー	35	9.2	34.9	115	16.2	8.8	2	0.5	26.1	28	72.9
ロックス	493	111.4	0	227	45.7	0	2	0.5	32.8	171	17.2
無処理	170	44.7	16.1	213	42.1	2.3	19	5.5	52.9	100	43.6

摘

- 1) 残された研究上の問題点
  - (1) グラス型飼料作物の適草種については、主として暖地型牧草から選定したが、さらに供試草種以外の有望草種、品種の検索が必要である。
  - (2) 牧草、飼料作物に対する農薬の使用基準がないので、安全性および適正使用基準設定の検討が必要である。
- 2) 普及、行政に移し得る新しい技術
  - (1) 新技術の内容と特徴
 

多湿条件を中心とする安定多収栽培について、耐湿性草種選定、栽培方式、作

要

期、雑草防除などを検討した結果は次のとおりであった。

全般に乾田が湿潤田より多収であるが、栽培ヒエ、オオクサキビ、カラードギニア、ローズグラスなどは、多湿条件での減収割合が少なく耐湿性に優れた。また、湿潤田では耐湿性草種の育苗移植、苗播移植などの栽培方式は安定多収であるが実用場面では代播直播方式が省力的である。各草種の播種適期は、栽培ヒエが5月1日～5月20日、オオクサキビ、カラードギニア、ローズグラスなどは5月

20日～6月10日である。移植栽培における水田用除草剤は、いずれも除草効果は高いが、ロンスターは栽培ヒエのみに薬害があり、乾田用除草剤は、グラメックス、ロロックス、ゲザプリム、アクチノールなどは比較的除草効果が高く、薬害も少ない。

(2) 普及指導上の留意事項と適用地域

オオクサキビ播種の際は、種子の休眠

覚醒が必要で苗播移植には、ペーパーポット（稲用）に播種し、ビニールハウス内で保温育苗する。代播直播では湛水中に播種すると発芽不良となる。また、育苗移植方式では、水田用除草剤は水稲への使用法が準用できる。

適用地域は、多湿転換畑だけでなく、四国全域の転換畑に広く適用できる。